

# 総合理学研究所「年報 95」の刊行に当たって

総合理学研究所長 杉谷嘉則

総合理学研究所の「年報 95」が刊行される運びとなりました。所員一同、共にこれを慶びたいと存じます。

研究所の運営もお陰様で良い意味での定常状態になりつつあります。前回の年報刊行の頃は、その前に研究所の名称変更とそれに伴う規約の改訂などがあったことの影響で、諸事遅れ気味となり、不備を感ずることが少なくありませんでした。今はそのような初期の混乱も克服されて諸作業も落ち着きの中で進められるようになりました。

さて「年報 95」中には、95年度分についての事業報告すなわち共同研究の成果報告、講習会などの広報活動その他が記載されています。一覽して、それなりの活動成果があがったことが見て取れるのは喜ばしいことでもあります。

ご承知の通り、研究所の目的は、「共同研究の推進」と「広報活動」にあります。研究所が推進する共同研究は、学科内あるいは学科間にまたがる形で複数の研究者がグループを組み、必要によっては学外あるいは海外からの研究者をも混えて、より広範のシステムで特定のテーマの研究を進めるものであります。従ってテーマも個々の研究者が扱うようなものより、やや広域的、境界領域的なものになります。

現在のところ、共同研究推進の大きな柱として、

- (1) 海洋資源活用、 (2) 環境保全

の二つを掲げています。これらが研究所の当面のメインテーマであり、なるべくこれに沿ったかたちで共同研究を進めようとしています。

一方、研究所のもう一つ別の目的は、広報活動であり、これは研究所が学内と学外の学術交流の接点として機能しようとするものです。具体的には、講演会、講習会、あるいはフォーラムといった各種の行事を開催して、学内においては研究者間の知的交流、そして対外的には大学と学外との交流をはかり、さらには大学から地域に向けて知的サービスを行うという役割です。この場合の地域としては、平塚市、神奈川県、そして首都圏などを想定しています。また対象の人々としては、市や県下の住民、中・高・大学の教員、さらに首都圏の民間および公共研究機関の研究者、等々です。

これまでもいろいろなテーマで講習会やセミナーを開催して参りましたが、

- (i) 包装フォーラム
- (ii) 機器分析講習会
- (iii) 平塚シンポジウム（化学科と共催）

などが定例的に開かれるようになっていきます。講師は本学教員や、全国の大学・研究機関の研究者などです。

これらの活動報告が本年報にまとめられています。ご覧いただき、ご意見等いただければ幸いです。総合理学研究所の発展のためにも、皆様方の積極的なご支援、ご協力をお願い申し上げます。